

中学校 第2・3学年下 音楽科 学習指導案

宮城教育大学附属中学校
教諭 菅井 由香

- 題材名** 曲の形式を生かして歌おう（3時間）
- 題材のねらい** 表情豊かな旋律によって生み出される情感を感じ取り、フレーズのまとまりや音楽記号にも着目し、創意工夫しながら歌唱する。
- 本時のねらい** 曲想と歌詞の内容とを関わせて歌唱する。（第2時）
- 指導時期** 4月中旬～下旬

指導者用デジタル教材活用の意図・目的

曲にふさわしい歌唱表現を考える際、歌詞から思い浮かぶ情景を理解したり、曲の特徴について他者と意見を交換したりすることは、表現を深めるための大切な手立てとなる。『花』は、春の隅田川の美しい情景を描いた曲であり、歌詞の内容に合わせた表情豊かな旋律や強弱等が魅力的で、我が国で長く歌われ親しまれている歌曲である。

「指導者用デジタル教材」を用いることによって、「動画」で春の隅田川の様子を鮮明に見せることができる。また、範唱やパートごとの音についても全体で瞬時に確認できるなど、表現をより深められると考える。

本時(第2時)の展開

	活動内容	デジタル教科書・教材の活用
導入	<ul style="list-style-type: none"> ●「指導者用デジタル教材」の初期画面を開いてコンテンツを起動する。 ●「目次を開く」から『花』のページを表示する。 <p>前時を振り返り、「上パート」「伴奏」を歌う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●音やリズムが不安定な箇所を確認する。 	 <ul style="list-style-type: none"> ●『花』の「範唱」アイコンをクリックして、楽譜を表示する。 

	活動内容	デジタル教科書・教材の活用
導入		<ul style="list-style-type: none"> ● 「上パート」「伴奏」の音源を流す。 
展開	<p>曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 「動画」を視聴し、曲の情景を理解する。 <ul style="list-style-type: none"> ● 1～3番それぞれの強弱や言葉の発音など、歌詞の内容にふさわしい表現の仕方を考える。 ● どのように歌うか、個別のワークシートも取り入れながら、その後、全体で確認をする。 <ul style="list-style-type: none"> ● 3番の山場（クライマックス）については、1・2番とも比較をさせながら、より具体的に表現の工夫を考える。 <p>T：「なーにーに」の部分のクレシェンドはどのように歌いたいですか。</p> <p>S：旋律の音の高さも上がっていて、「なににもたえられないくらい美しい」という気持ちの高まりが表現できるように盛り上げていきたい。</p> <p>T：1・2番には明記されていないからこそ表現を工夫していきたいですね。では、フェルマータはどれくらい伸ばしますか。実際に歌いながら考えてみましょう。</p>	 <ul style="list-style-type: none"> ● 全体で確認をする際に、工夫する内容を「ペン」や「マーカー」を使って書き込みをする。 

	活動内容	デジタル教科書・教材の活用
展開	<p>● S : 美しい景色を見たときに感じる気持ちの余韻を表現したいから、3拍くらいではどうだろうか。</p> <p>● S : その後のピアノ伴奏の和音を聴くためにも休符は意識したい。</p> <p>● T : それでは、rit.の部分はどうのように歌いますか。</p> <p>● S : 高揚した気持ちをかみしめるように壮大に歌いたい。</p>	<p>● 「範唱」や「伴奏」の音源も活用し、実際に歌唱する活動も取り入れながら、生徒の意見を引き出し、追記する。</p> 
まとめ	<p>● 本時を振り返り、考えた表現を意識しながら歌唱する。</p>	<p>● 楽譜に書き込んだ生徒の意見は保存して次時に活用する。</p>

指導者用デジタル教材を活用したことで得られた効果

パートの音取りの際に、流れている音楽に合わせて、画面上の楽譜の色が変わったり動いたりするので、生徒は視覚的にも旋律や歌詞を追うことができる。特に『花』は、旋律やリズムの違いが随所にあるため、つまづいた部分を瞬時に繰り返し練習できることも、「指導者用デジタル教材」の大きな魅力である。また、情景の「動画」を見せることで、歌詞から想起される情景をよりイメージすることができ、生徒の思いや意図が更に深みを増すと考える。工夫する内容を画面上の楽譜に書き込み、全体で確認しながら実際に歌唱を重ねることで、曲にふさわしい歌い方を工夫しながら技能を身につけていくことができる。

多くのツールが組み込まれている「指導者用デジタル教材」を活用することにより、さまざまな表現の工夫を想定することができ、歌唱表現をより深めることができるであろう。